水垣　渉（みずがき・わたる）名誉教授略歴

一九三五（昭和一〇）年
　三月一二日　高知県幡多郡中村町（現中村市）生
一九五三（昭和二八）年
　三月一日　岐阜県立中津高等学校卒業
　四月一日　京都大学文学部入学
一九五七（昭和三二）年
　三月二五日　同学部哲学科卒業（基督教学専攻）
　四月一日　京都大学大学院文学研究科修士課程宗教学（基督教学）専攻入学
一九五九（昭和三四）年
　三月二五日　同大学院修士課程修了
　四月一日　同大学院博士課程宗教学（基督教学）専攻進学
一九六二（昭和三七）年
　三月三一日　同大学院博士課程に所定の年限在学し所定の単位を修得、退学
　七月一日　京都大学文学部助手
一九六六（昭和四一）年
　三月三一日　同大学退職
　四月一日　京都産業大学専任講師
一九六九（昭和四四）年
　三月三一日　同大学退職
　四月一日　東京女子大学文理学部専任講師
一九七〇（昭和四五）年
　四月一日　同大学助教授
一九七五（昭和五〇）年
　三月三一日　同大学退職
　四月一日　京都大学文学部助教授
一九八一（昭和五六）年
　四月一日　同大学教授（哲学科宗教学第二講座＝キリスト教学担任）
一九九六（平成八）年
　四月一日　大学院重点化に伴い、文学研究科に配置替え、文学部兼担
一九九八（平成一〇）年
　三月三一日　同大学定年退職、京都大学名誉教授

業績目録（学術論文と多少ともそれに近いものに限る）

著書

一九八四（昭和五九）年　『宗教的探求の問題――古代キリスト教思想序説――』、創文社

論文

一九六二(昭和三七)年　◇「基督教的覚智主義の宗教的性格についての問題」、「京都大学文学研究科昭和三六年度大学院博士課程単位修得見込者研究発表要綱」、一四

一九六七(昭和四二)年　◇「探求と発見――初代教父及びグノーシスにおけるマタイ七・七の解釈――」、「日本の神学」六号、一七五―一八四

一九七一(昭和四六)年　◇「限界と定義――アレクサンドリアのクレメンスに至るまでの古代キリスト教思想における――」、東京女子大学「論集」二一巻二号、三七―六八

一九七四(昭和四九)年　◇「人と地――『バルナバの手紙』六・九の宗教史的背景をめぐる考察――」、「宗教研究二二七号一―二一、一三五以下

◇「ユスチノスにおける《求道》の問題」、キリスト教と思想研究会「途上」五号、一―二四

◇"The Problem of «Kyûdô» (zêtêsis) in the Thought of Justin Martyr", 「日本の神学」二三号、一九―二四

一九七五(昭和五〇)年　◇「初期ギリシア思想における《探求と発見》」、東京女子大学「論集」二五巻一号(一九七四)、一―二六、二号(一九七五)、三九―六四

◇「ユスチノスにおける《期待》の思想――序説」、「途上」六号、四三―六一

一九七六(昭和五一)年　◇「ユスチノスにおける《期待》の思想」、「途上」七号、二五―四四

一九七七(昭和五二)年　◇「シンポジウム発題」「キリスト教理解とキリスト教史学」、「日本の神学」一六号、一四四―一五三

一九七八(昭和五三)年　◇「故有賀鐵太郎先生の学問的道程」、「日本の神学」一七号、一三―二二

◇"The Academic Course of the Late Dr. Tetsutaro Ariga", 同誌、二一―二五

一九七九(昭和五四)年　◇「シンポジウム発題」「教父とヒューマニズム」、「中世思想研究」二二号、一八六―一九二

◇「オリゲネスの《キリスト教理解》(『ケルソス駁論』三・一二)」、「基督教学研究」二号、一―二九

一九八〇(昭和五五)年　◇「探求とロゴス」、「哲学研究」五二八

号、一―一三(一九七四)、五三九号、三六―六二

◇「最近のグノーシス研究」、「中世思想研究」二二号、一九九―二〇八

一九八一(昭和五六)年

◇「神」、訓覇・有福編『倫理学とはなにか』、勁草書房、二四〇―二五三

◇「アドルフ・フォン・ハルナックにおける《キリスト教のギリシア化》の問題」、「途上」一一号、六七―九一

一九八二(昭和五七)年

◇「古代キリスト教における《好奇心》の問題」、「哲学研究」五四六号、一―四三

一九八四(昭和五九)年

◇「ヨブ記における問いの問題」、「哲学研究」五五〇号、三六〇―三八二

◇「バシレイオス」、上智大学中世思想研究所編『古代キリスト教の教育思想』、東洋館出版社、二二九―二四八

一九八五(昭和六〇)年

◇「祈りの宗教――キリスト教と神学」、上田・柳川編『宗教学のすすめ』、筑摩書房、三八一―三九九

◇「ヘブライズム・ヘレニズム・キリスト教――比較研究の問題――」、武藤・平石編『キリスト教を学ぶ人のために』、世界思想社、二四―三四

◇「オリゲネスとヨセフス」、フェルトマン・秦編『ヨセフスとキリスト教』、山本書店、二二一―二四三、四五六―四五八

◇「《キリスト教》概念の成立　その一――《christianismos》について」、「基督教学研究」八号、一―三四

一九八七(昭和六二)年

◇「アレクサンドリアのクレメンスにおける《明瞭性》(エナルゲイア)の問題、序説――ギリシア人の《テオス》と《エナルゲイア》――」、「途上」一六号、一―三二

◇"Origen and Josephus", in: L. H. Feldman and G. Hata (eds.), *Josephus, Judaism and Christianity*, (Detroit: Wayne State University Press), p.325-337

一九八九(平成一)年

◇「エラスムス『新約聖書』(Novum Instrumentum, 1516)解題」、『エラスムス校訂『新約聖書』一五一六年刊初版本復刻本　付録解説』、臨川書店、一一―一七

◇「初期アタナシオスにおける弁証論としての《十字架の神学》――アタナシオス《想像》論研究のための序説――」、「改革派神学」二〇輯、九六―一三一

◇「カッパドキア教父の自然観――バシレイオスの『ヘクサエメロン』を中心として――」、上智大学中世思想研究所編『古代の自然観』、創文社、二七七―三〇四

◇「波多野精一の《回想》」、『波多野精一全集』六巻、月報、岩波書店、一―四

一九九〇(平成二)年

◇「教父の学問的態度としての信仰的探求――オリゲネスの伝統における――」、東北学院大学「キリスト教研究所紀要」八号、一―二七

◇『ドウエ・ラーンス聖書』の特質」、『カトリック英訳『リームズ・ダウイ新・旧約聖書』初版本復刻本　付録解説』、臨川書店、一一―一五

◇《センペル・クワエレンス》(つねに求める者)――E・ブッシュ著『カール・バルトの生涯』をとおして見たバルトの教義史的意義――」、小川圭治編『カール・バルトと現代．ひとつの出会い――E・ブッシュ教授をむかえて』、新教出版社、一一二―一一八

一九九一(平成三)年

◇「初期アタナシオスにおける《想像》」、「途上」二〇号、五七―八五

◇「キリスト教思想の本質と構造としての《ハヤトロギア》――有賀鐵太郎の業績とその意義」、李鐘聲博士古稀紀念論文集：*"CHURCH and THEOLOGY"*、同刊行委員会編、ソウル、六五二―六八〇

◇「神学的言語の関係性と未完性について」、「聖書と教会」三一九号(一〇月号)、二―七

◇「聖霊と探求――オーリゲネース『諸原理について』第四巻における聖書解釈学の基礎づけ」、秦・アトリッジ編『キリスト教とローマ帝国』、リトン社、九一―一二三、四四四―四五〇

一九九二(平成四)年

◇""Spirit" and "Search": The Basis of Biblical Hermeneutics in Origen's *On First Principles* 4.1–3", in: H. W. Attridge and G. Hata (eds.), *Eusebius, Christianity and Judaism*, (Detroit: Wayne State University Press), p.563–584

一九九三(平成五)年

◇「西谷宗教哲学におけるキリスト教」、京都宗教哲学会「宗教哲学研究」一〇号、一四—三四

◇「《神の自己二重化》について」、古屋安雄編　中川秀恭先生八十五歳記念論文集『なぜキリスト教か』、創文社、一二七—一五二

◇「パウロにおける《私》とキエルケゴールにおける《自己》——キリスト教的人間理解の基礎——」、「キエルケゴール研究」一三号、二七—三七

◇「アウグスティヌスと古代思想」、金子晴勇編『アウグスティヌスを学ぶ人のために』、世界思想社、二二二—二三二

一九九四(平成六)年

◇[シンポジウム発題]「キリスト教複合体と教会」、「日本の神学」三三号、二一八—二二四

一九九六(平成八)年

◇「神・愛・場所——ブーバーから武藤への接近の一つの試み——」、「基督教学研究」一六号、一—二四

一九九七(平成九)年

◇「《第二スイス信仰告白》の構成と内容について——信条史の視点からの序論的考察——」、「改革派神学」二五号、三〇—八一

一九九八(平成一〇)年

◇「プロテスタント思想の問題としての《信仰と知恵》——一つの問題提起——」、土戸清・近藤勝彦編、倉松功先生献呈論文集『宗教改革とその世界史的影響』、教文館、一五三—一七〇

◇[シンポジウム発題]「キリスト教と文化——キリスト教思想の立場から」、「日本の神学」三七号、一四八—一五四

◇[シンポジウム発題]「ギリシア教父における聖書解釈の前提、方法及び意義」、「中世思想研究」四〇号、一四三—一五二